

地域貢献活動事例報告書

活動団体名	バリアフリーデザイン研究会	事業名	地域スケール(特性)発見による地域の活性化
<p>●活動の概要</p> <p>今年度は、昨年度作成したカラーユニバーサルデザインに配慮した魅力的なマップを元に、商店街の理事会及び店主の方々との関係を深め、今後の課題を発見するためにヒアリング調査、座談会など開催。「これからの子飼商店街」について店主の方々との話し合い今後の活動に繋げるとともに、昨年度のマップが好評だったことを受け、店主の方々の意見も取り入れ改良し再発行した。</p>			
<p>●活動組織の概要</p> <p>活動組織は、ハンディキャップのあるなしにかかわらず、日常の生活や社会活動を行うことが保障された生活環境を形成することを目的としている。高齢化が進む旧市街地の商店街に対して、地域住民の生活を保障するためには商店街の活性化が重要だと考え、商店街店主と共に活性化に取り組む。</p>		<p>●他の団体・専門家との連携</p> <p>建築士会、熊本大学の学生と連携し、活動を繰り広げた。昨年度発行したマップの改良においては、UDくまもとに監修をお願いし、より見やすいマップ作りに取り組んだ。</p>	<p>●建築士の関わり</p> <p>バリアフリーデザイン研究会の建築士メンバーを中心に活動を組み立て、調査・マップ作成には学生に協力してもらい活動した。</p>
<p>●活動のきっかけ</p> <p>子飼商店街は熊本大学のすぐ近くにあり、近所には学生の住まいも多く、商店街を通学路として利用している。昨今では空き店舗も出てきており、地域を活性化するには地元の人とここを訪れる人の交流が行われる必要があると考え昨年度に活動をスタートさせた。</p>			
<p>●活動の内容と成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎学習：8月2日。子飼商店街の歴史、過去の商店街での活動について学ぶ。(参加者8名) 2. 商店街理事との会合：(初顔合わせ)8月26日。理事の方々に地域貢献活動説明。(参加者4名+理事会) 商店街にある2つの組合の合同理事会・理事打ち合わせ等→10月8日、1月25日 子飼繁栄会商店街振興組合理事打ち合わせ→10月29日、12月20日 3. 商店街現状調査：11月8日(土)。子飼商店街の利用状況、UDチェック。(参加者7名) 4. 空き店舗調査：11月8日。子飼商店街で活用できる空き店舗、現況調査。(参加者4名) 12月20日、空き店舗活用プラン3案作成、報告。 5. 商店街来街者ヒアリング調査：12月6日(土)百円笑店街時に100件ヒアリング調査。(参加者8名) 1月8日(木)平日時のヒアリング調査。(参加者7名) 6. 商店街近郊単身世帯ヒアリング調査：9月20日(1世帯)、12月20日(2世帯)合計3世帯 7. 商店街ワークショップ：2月13日(金)。商店街店主及びバリ研関係者座談会。(参加者19名) 8. 商店街マップ改良：2月～3月 9. バリアフリーデザイン研究会内ミーティング(全体ミーティング6回、プロジェクトメンバーミーティング5回) <p>昨年度の課題を受け、今年度の活動は上記とおり、商店街店主の方々との交流、来街者の方々からのヒアリング等、商店街に根差した活動をしてきた。その結果、空き店舗を活用し、近隣住民との交流、地域の活性化に繋がりたい意思が伺え、今後の商店街での地域貢献活動の課題を発見することができた。</p>			
<p>●今後の課題</p> <p>活動のきっかけとして、地域を活性化するためには地元の人と訪れる人の交流が必要であることを掲げた。昨年度の課題を受け、商店街の理解を得るために今年度は商店街店主の方々との座談会を企画。度重なる商店街との打ち合わせで問題点を把握できた。今後は、問題点の一つである空き店舗について、どのように活用したら活性化に繋がるのか、その点を課題として次年度以降の活動としたい。</p>			
<p>●今後の計画</p> <p>今後の課題として挙げた空き店舗の活用について、今後は商店街店主の方々との話し合いを重ね、具体的に進めることができたらと考えている。地域貢献活動は継続性が大切である。継続性は地域の人々と一緒に取り組むことにより生まれる。このことを念頭に置き、次年度以降も活動を続ける予定である。</p>			
報告書作成者	所属 公益社団法人熊本県建築士会 女性部会		氏名 持田 美沙子
連絡先	TEL 080-8398-5654	FAX	e-mail: mocchi.1116@gmail.com

地域貢献活動の資料・写真など(必要に応じて添付して下さい)

1. 基礎学習：8月2日(土) 9:30~12:00。白川わくわくランド (参加者8名)

- ①子飼商店街での過去の研究および活動について
- ②子飼商店街の現状、歴史、お祭り
- ③やさしいまちづくりアドバイザー養成講座での活動
- ④「高齢者が生き生きと暮らせるまちづくりの手引き」より
- ⑤今年度の活動についての意見等

これらのことについて、勉強会の場を設け、今後の計画を具体的に建てた。



2. 商店街理事との会合

- ①8月26日(火)19:00~。子飼繁栄会組合事務局にて(参加者4名+理事会)
子飼商店街理事の方々と初顔合わせをし、理事の方々に地域貢献活動の説明及びバリアフリーデザイン研究会の取り組みについて説明を行った。
また、子飼商店街の店主として気になる点、取り組みたい点のヒアリング。
補助金をもらって活動している百円笑店街等の話、今後、補助金を貰って空き家活用を行いたい旨を聞いた。



- ②10月8日(水) 19時~。8月26日に頂いた課題(補助金について)の調査報告を行った。
- ③10月29日(水)19時~。子飼商店街に現存する2つの組合のうち、繁栄会より、空き店舗活用の相談を受け、理事会に対して改めて補助金の説明を行った。
- ④12月20日(土)。11月8日の空き店舗調査を受け、空き店舗活用プラン3案作成し、報告。

3. 商店街現状調査：11月8日(土)10:00~。子飼商店街の利用状況、UDチェック。(参加者7名)

学生2名を含むバリアフリーデザイン研究会メンバー合計7名で商店街調査を行った。調査では、子飼橋側から藤崎宮側までの商店街の路面、休憩場所の有無、トイレの位置、店舗入り口の段差、サインの現状等に目を配りながら、丁寧に確認。時折、店主の方々と会話で来店者の状況を確認した。

4. 空き店舗調査：11月8日14:00~。空き店舗、現況調査。(参加者4名)

商店街現状調査の日の午後から、学生3名、女性部会1名合計4名で相談のあった空き店舗の現況調査を行った。店舗の測量、構造の確認、道路との関係、上下水道の状況などを調査。同時に、商店街の理事の方から、どのような利用方法をしたいのかヒアリングも行った。



5. 商店街来街者ヒアリング調査

- ①12月6日(土)10:00~百円笑店街時に100件ヒアリング調査。(参加者8名)

商店街で3か月に1回開催されている百笑店街当日、商店街の利用のしやすさ等UDの視点も入れて作成した調査票を元に、ヒアリング調査を行った。

- ②1月8日(木)平日時のヒアリング調査。(参加者7名)

日常の来街者に対してもヒアリング調査が必要と考え、平日の昼間に、熊本大学の学生に依頼し、50件のヒアリング調査を行った。

以下、調査結果の一部である。

イベント時は平日と比べると中間世代が多いことがわかる。また、平日は、70代以上の世代が極端に多く、商店街近辺には高齢者が多く住んでいることがわかる。



